

「ゼロにちかい回答」

漁連の25億要求に

難航か新日窒との調停

争 紛 病 候 水

水俣病をめぐる不知火沿岸漁民と新日窒水俣工場との紛争調停は、県漁連が要望した「十日までの解決」にあと数日を要すだけとなったが、五日調停委員会が明らかにしたところによると、さる二日ひらいた第一回調停委員会で会社側は漁業補償に「ゼロに近い回答」をしたといわれ、場合によっては調停がデッド・ロックに乗り上げること予想されている。

委員会の頭痛のタネは、県漁連が提示した「二十五億円の損害額と、会社側のゼロに近い数字をこの短時日の間にどう歩み寄らせるか」ということにある。

会社側は三日の委員会で補償問題に対する会社側の基本的考え方をのべたが、そのなかで吉岡社長は水俣病の原因が工場排水にあると科学的立証がまだ最終的には出ていないとの理由で、会社は補償責任のないことを主張したといわれる。

しかし寺本（知事）岩尾（県議）

会社側は「両委員会は、その考えでは問題は解決しない。社会不安の根源を除きえない」として会社側に激しく非難、このため委員会終了後の寺本、吉岡会談で、会社側から多少の歩み寄りがあったといわれる。

漁連側が提出した「二十五億円の被害」について委員会筋では「正確な数字ではない。出漁しなかったため船や網が損壊しなかった分などを差し引く必要がある。また農林統計の資料より県漁連が出した資料の方が大きすぎる」とし

て多少修正できる見通しはもっている。それにしても会社側の考え

との間にあまりに大きいひらきがあるのを苦慮、寺本知事や森永商工水産部長らが連日会社側と漁民側の間を奔走、説得に努めてはいるが、来週早々に調停案を双方に提示できるかどうかはあやふまれている。

日本合成の排水の善処方

網津漁協代表らが要望

宇土市網津漁協の代表十五人は工場排水の善処方を要望するため五日午後二時すぎ同市築港日本合成熊本工場を訪れた。さる一日緒川尻一帯の有明海沿岸漁協関係者が合同で同工場を訪れたさい網津漁協代表が日程の都合で参加できなかったために単独で訪れたもの。一行は浜田同工場庶務係長から工場の排水状況などの説明を聞いたのち工場内の排水施設を見学、工場汚水処理の善処方を要望、夕刻全園引き揚げた。